

Linux 概説 (4)

パーミッション

はしもとじょーじ

パーミッションとは

ファイルにアクセスする権利

- 全てのファイルに設定される
- ディレクトリにも設定される

3つの許可

- ファイルを**読む**ことを許可 (Read)
- ファイルを**書き換える**ことを許可 (Write)
- ファイルを**実行する**ことを許可 (eXecute)

パーミッションの必要性

UNIX = マルチユーザ環境

- みんなで同じ計算機を使っている

利用権限(パーミッション)をしかるべく設定
することは、ユーザの責任

- 見られて困るものは見られないようにする
- 意図しない事故を防ぐ
- etc

パーミッションの設定

誰に許可するか

- 所有者 (User)
- 所有グループ (Group)
- その他 (Others)

何を許可するか

- ファイルを読むことを許可 (Read)
- ファイルを書き換えることを許可 (Write)
- ファイルを実行することを許可 (eXecute)

ファイルの所有グループ

複数のユーザを束ねて管理する単位

- 共同作業をするときなどに、グループを設定すると便利
- 指定しなければ所有グループは所有者と一致

ファイルモード

```
$ ls -l  
drwxrwxrwx 2 george george ... tako
```

ファイルモード		所有者	グループ
<u>drwxrwxrwx</u>	2	george	george

- ファイルの種類
- User に対するパーミッション
- Group に対するパーミッション
- Others に対するパーミッション

ファイルモード

ファイルの種類

- 通常ファイル
- d ディレクトリ
- s シンボリックリンク

パーミッション

- r 読みとり可
- w 書き換え可
- x 実行可
- 不許可

ファイルモードの変更 : chmod

\$ chmod o+r tako.txt

tako.txt というファイルについて
Others に対して Read を許可する

\$ chmod g-w ika.txt

ika.txt というファイルについて
Group に対して Write を不許可

\$ chmod ugo+r uni.txt